

第223回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

- 1 開催年月日 平成28年11月7日(月) 11:00~12:00
- 2 開催場所 宇都宮グランドホテル
- 3 委員の出席 委員総数 6人  
出席委員数 3人
- (1) 出席委員の氏名 片山 貴之 (委員長)  
青木 敬信  
町田 明久
- (2) 欠席委員の氏名 君島 理恵 (副委員長)  
早川 富美子  
畠山 大
- (3) 放送事業者側出席者 関根 房三 (代表取締役社長)  
床井 和夫 (業務推進本部副本部長)  
佐藤 望 (放送部長)  
古寺 雄史 (放送部課長)
- 4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換  
(2) その他  
(3) 次回開催日程について
- 5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

10月29日放送の録音番組「矢板時間」について、試聴と意見交換を行った。

事業者

今年度から「矢板時間」は、生放送から収録番組に、  
そして、番組のパーソナリティも若手フリーアナウンサーの高賀茂沙織里に変え、  
イメージを一新しました。

矢板市の観光、食、人など様々な情報をアクティブに取材し、  
その魅力を発信しているふるさと応援番組です。

## 【 番 組 の 試 聴 】

委員：

これまでのふるさと応援番組は、いろいろなテーマを詰め込んだ番組が多かったが、今回、「矢板のスポーツ！」に絞り込んで、より専門的な情報を届けようとしている姿勢は大いに評価出来る。番組も全体的に上手にまとまっていた。

委員：

パーソナリティの高賀茂さんは、声のトーンも明るくて、滑舌も良く、好印象を持ったが、用意した質問をインタビュー対象者に投げ、その回答がもらえると、すぐに次の質問に行く場面が多々あった。

大半がインタビュー対象者から話を引き出す番組形式だけに、合いの手や、相手の言葉をリピートするなど、内容がリスナーの印象に残るよう、インタビュー全体のアクセントをもっと意識してほしい。

委員：

事前の勉強不足からか、インタビュー相手への浮いた質問も目立っていた。エンディングで、インタビュー収録後に30分も話し込んでいたことを話していたが、その分を収録前の打ち合わせに費やして、インタビュー相手の魅力がリスナーに伝わるよう、うまくそのエピソードを引き出すように、もっと踏み込んだ質問をしてほしい。

委員：

その回で取り上げるインタビュー対象者と、「矢板」に、どのような接点があるのか、そういった、ふるさと応援番組ならではの視点での質問がほしい。

委員：

「…ですよ？」「…します？」という語尾が気になる。これらは、タメ語として聞こえ、横柄に感じられた。インタビュアーとしての、自分自身の出し方には細心の注意を払ってほしい。

委員：

インフォメーションのコーナーでは、場所や固有名詞などでも、項目と項目の“間”を取らないで、サラサラとどんどん読んでいた。やはり、それは、「情報がリスナーに伝わっているか」という観点で聴くと、平坦で単調に聞こえ、伝わりにくい。

委員：

エンディングでは、それまでのパートとは一転、ゆったりと話していて、とても良い感じに聞こえた。早口で話せることは話し手として素晴らしい能力ではあるが、多用をすれば、単調で伝わりにくくなる。若手で期待を背負った喋り手だけに、今後の成長に期待していきたい。

(以上)

(2) その他  
なし

(3) 次回開催日程について  
次回の開催を12月5日(月)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日  
なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日  
(1) 放送 11月27日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内  
(2) 書面 本社事務所に備え置き  
(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項  
なし